

## 学修目標

われわれヒトのからだは、細胞と細胞外マトリックスで構成されるということを、細胞、組織、器官、器官系の各レベルで、形態的なイメージとして具体的に捉えかつ考えられる理解力を養う。

- 教科書：組織学・口腔組織学 第3版（わかば出版）  
講義レジメ、参考テキスト教材および iMaC 組織像を提供する。利用にあたり本学交付の NU-MailG アカウントが必要。iPad 等の利用を推奨。
- 参考書：はじめの一步の生化学・分子生物学 第2版（羊土社）  
講義中に適宜、関連する成書や推薦図書等を紹介する。
- 授業時間：金曜日 11:00～11:50 および 13:00～13:50。合計 28 回
- オフィスアワー：磯川桂太郎 月曜日 8:00～9:00  
山崎洋介 月曜日 8:00～9:00
- 成績評価：前期試験を含む都合 3 回の試験をほぼ均等に評価・判定。受講姿勢も加味。
- 注意事項：5月10日(金)と6月14日(金)の中間試験は9:00～9:50に実施する。
- 準備学習：オンライン配付の講義レジメ等に事前に目を通し、講義にそれらを持参すること。受講時は、自らがあとで講義の流れや要点を再現できるようにノートやメモを取ること。それに基づいて、講義後の当日あるいは翌日に復習をし、理解できなかった点は教科書等を読み、解決を図ること。

授業日・担当者	講義項目	学修到達目標
第1回4月5日 11:00～11:50 磯川 桂太郎	1. 細胞から生体へ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 組織学の学問的位置づけと取り扱い範囲を知り、何を、どのような教材で、どのような姿勢で学ぶべきであるのかを理解する。</li> </ul>
第2回4月5日 13:00～13:50 磯川 桂太郎	2. 上皮組織と腺 (教) pp. 35-52	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 上皮の形態学的分類と機能的分類に意義や具体例を学ぶ。</li> <li>・ 腺の概念、内分泌腺と外分泌腺、外分泌腺の多様化を学ぶ。</li> </ul>
第3回4月12日 11:00～11:50 磯川 桂太郎	3. 固有結合組織 (教) pp. 59-67	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 結合組織にみられる主な細胞の形態学的特徴と機能的な役割を学ぶ。</li> <li>・ 結合組織の分類、骨、軟骨など支持組織の概念やこれらを構成する細胞を学ぶ。</li> </ul>
第4回4月12日 13:00～13:50 磯川 桂太郎	4. 細胞外マトリックス (教) pp. 68-72	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 細胞外マトリックス成分を幾つかに大別し、代表的な分子についての概要を整理する。</li> <li>・ 細胞外の線維系の形態学的特徴や役割、分子構成を学ぶ。</li> <li>・ collagen 分子がどのように膠原原線維や基底膜を形づくるのかを学ぶ。</li> </ul>

授業日・担当者	講義項目	学修到達目標
第5回4月19日 11:00～11:50 磯川 桂太郎	5. 細胞骨格 (教) pp. 20-29 (参) pp. 22-26	<ul style="list-style-type: none"> <li>細胞骨格と呼ばれる細胞内構造とその分子構成・特徴を学ぶ。</li> <li>細胞骨格が細胞の形態・極性の保持や細胞運動で果たす役割を理解する。</li> </ul>
第6回4月19日 13:00～13:50 磯川 桂太郎	6. 細胞間結合 (教) pp. 15-19 (参) pp. 27-32	<ul style="list-style-type: none"> <li>細胞膜の構成分子の基本的な役割を学ぶ。</li> <li>細胞間および細胞-基質間の結合装置の構造と構成分子を整理・理解する。</li> <li>結合装置の分布と機能的役割, 接着分子の種類や特異性について学ぶ。</li> </ul>
第7回4月26日 11:00～11:50 磯川 桂太郎	7. 皮膚と粘膜 (教) pp. 35-47, 57 325-331	<ul style="list-style-type: none"> <li>重層扁平上皮を構成する細胞層の組織学的な特徴を学ぶ。</li> <li>口唇の皮膚と粘膜(裏層粘膜)の組織構造を比較し, その特徴と差異を理解する。</li> <li>皮膚付属器である皮脂腺, 立毛筋, 毛, 汗腺(エクリン型・アポクリン型), 爪などの存在部位と組織学的特徴を学ぶ。</li> </ul>
第8回4月26日 13:00～13:50 磯川 桂太郎	8. 支持組織 1) 軟骨組織 (教) pp. 68-72, 83-89	<ul style="list-style-type: none"> <li>生体内に存在する軟骨組織の種類や分布, 役割, 成長様式を知る。</li> <li>proteoglycan の分子構造と, 軟骨の組織学的な特徴や機能との関連を学ぶ。</li> </ul>
第9回5月10日 9:00～9:50 磯川 桂太郎	第1回中間試験	<ul style="list-style-type: none"> <li>第1～8回の講義を範囲とする筆答試験を行う。詳細は別途通知する。</li> <li>この試験は第1時限(9:00～)に実施し, 第3時限(11:00～)は「人体の生理機能」に振り替える。</li> </ul>
第10回5月10日 13:00～13:50 磯川 桂太郎	8. 支持組織 2) 骨組織 (教) pp. 86-87, 91-107	<ul style="list-style-type: none"> <li>骨の形態, とくに長管骨形態のマクロ的な特徴と関連する種々の名称を整理し, これらと緻密骨の基本的な組織構造とを関連づけて理解する。</li> <li>骨組織の細胞成分の組織学的特徴と機能的役割を学ぶ。</li> <li>血中のCa<sup>2+</sup>やリン濃度の恒常性維持における骨の細胞成分の役割を知り, 骨が単なる構造的な支柱でないことを理解する。</li> <li>骨代謝に関わるホルモン等の働きと産生細胞とを整理・理解する。</li> </ul>
第11回5月17日 11:00～11:50	9. 筋組織 (教) pp. 111-124, 133-135	<ul style="list-style-type: none"> <li>骨格筋・心筋の横紋が細胞内のどのような微細構造に起因しているのかを学ぶ。</li> </ul>

授業日・担当者	講義項目	学修到達目標
磯川 桂太郎	(参) pp. 70-73	<ul style="list-style-type: none"> <li>運動終板を介して筋細胞へ到達した刺激により, actomyosin 系に基づく筋収縮が生じる機構を理解する。</li> </ul>
第12回5月17日 13:00~13:50 磯川 桂太郎	10. 神経組織 (教) pp. 127-133	<ul style="list-style-type: none"> <li>神経細胞の形態と神経膠細胞(グリア)の種類, 機能的な役割の概要を学ぶ。</li> <li>髄鞘(=ミエリン鞘)や神経鞘(=シュワン鞘)の構造と成因を知り, その有無による神経線維の分類や機能的な差異を理解する。</li> <li>末梢神経の組織学的構築を理解する。</li> </ul>
第13回5月24日 11:00~11:50 磯川 桂太郎	11. 血液と血球 (教) pp. 73-81	<ul style="list-style-type: none"> <li>結合組織という観点から末血を理解し, その細胞成分(血球)の種類, 形態学的特徴, 臨床検査的な基本的事項を学ぶ。</li> <li>造血と造血組織の基本的事項を学ぶ。</li> </ul>
第14回5月24日 13:00~13:50 山崎 洋介	12. 消化器系 1) 消化管の基本構造 2) 食道 (教) pp. 159-160	<ul style="list-style-type: none"> <li>消化管の基本構造を学び, 管壁各層の区分と特徴が説明できるようにする。</li> <li>壁内腺の概念と組織学的特徴を学ぶ。</li> <li>筋層と壁内神経叢の位置・機能的関係を学び, 筋層の支配神経について学ぶ。</li> </ul>
第15回5月31日 11:00~11:50 山崎 洋介	12. 消化器系 3) 胃 (教) pp. 52-56, 160-164	<ul style="list-style-type: none"> <li>胃壁および胃腺の構造と, 胃腺を構成する細胞の組織学的な特徴と機能を学ぶ。</li> <li>胃酸の分泌を, その制御因子および細胞内分泌細管のダイナミクスという2つの観点から理解する。</li> </ul>
第16回5月31日 13:00~13:50 白土 昌之	12. 消化器系 4) 小腸 5) 大腸 (教) pp. 164-168	<ul style="list-style-type: none"> <li>輪状ヒダ, 腸絨毛, 微絨毛の相違と役割を知り, 腸管粘膜の部位差と消化吸收機能との関連を理解する。</li> <li>腸腺(Lieberkühn 腺)と十二指腸腺(Brunner 腺)の組織学的特徴を知る。</li> <li>腸管上皮のライフサイクルを知り, 上皮層を構成する細胞種を整理する。</li> <li>腸管壁でみられるリンパ性組織の特徴と機能的な役割を学ぶ。</li> </ul>
第17回6月7日 11:00~11:50 山崎 洋介	12. 消化器系 6) 膵臓 (教) pp. 172-175 (参) pp. 121-125	<ul style="list-style-type: none"> <li>膵臓外分泌部の組織像を学び, 分泌物の性状と組織構造との関連性を学ぶ。</li> <li>消化酵素の種類, 分泌制御に関わる細胞・ホルモン等を整理・理解する。</li> </ul>
第18回6月7日 13:00~13:50	12. 消化器系 7) 肝臓	<ul style="list-style-type: none"> <li>肝臓の小葉構造を形態学的な面と機能的な面から理解する。</li> </ul>

授業日・担当者	講義項目	学修到達目標
白土 昌之	(教) pp. 168-172	<ul style="list-style-type: none"> <li>小葉内の細胞について、その組織学的特徴を肝機能と関連づけて学ぶ。</li> </ul>
第19回6月14日 9:00~9:50 山崎 洋介	第2回中間試験	<ul style="list-style-type: none"> <li>第10~18回の講義を範囲とする筆答試験を行う。詳細は別途通知する。</li> <li>本試験は第1時限(9:00~)に実施され、第3時限(11:00~)は「人体の生理機能」に振り替えとなる。</li> </ul>
第20回6月14日 13:00~13:50 白土 昌之	12. 消化器系 7) 肝臓 (教) pp. 168-172	<ul style="list-style-type: none"> <li>肝臓内の血流と胆汁の分泌経路を正しい術語を使って説明できるようにする。</li> </ul>
第21回6月21日 11:00~11:50 山崎 洋介	13. 脈管系 (教) pp. 119-124, 151-157	<ul style="list-style-type: none"> <li>毛細血管の構造と機能の関連を学ぶ。</li> <li>動脈(筋型/弾性型)壁と静脈壁の構造を機能と関連づけて理解する。</li> <li>心筋の特性とともに、冠動脈、ペースメーカー、刺激伝導系といった構造の組織像と機能的役割を学ぶ。</li> </ul>
第22回6月21日 13:00~13:50 白土 昌之	14. 呼吸器系 1) 鼻腔・副鼻腔 2) 気管 (教) pp. 177-186	<ul style="list-style-type: none"> <li>鼻腔の構造と呼吸部粘膜の組織学的な特徴、副鼻腔の位置・役割を理解する。</li> <li>鼻腔から肺、特に気管から肺へ至る各部の組織学的特徴を学ぶ。</li> </ul>
第23回6月28日 11:00~11:50 山崎 洋介	15. リンパ性器官 1) リンパ管 2) リンパ節 (教) pp. 141-146, 350-351	<ul style="list-style-type: none"> <li>リンパ性器官の機能的階層性を学ぶ。</li> <li>リンパ節の組織構造をリンパの流れに沿って整理し、リンパ節内の細胞の形態的特徴や機能的役割を理解する。</li> <li>リンパ節がリンパの流路で歩哨的に介在していることを理解する。</li> </ul>
第24回6月28日 13:00~13:50 白土 昌之	14. 呼吸器系 3) 肺 (教) pp. 177-186	<ul style="list-style-type: none"> <li>肺胞へ至る各部の組織学的特徴を学ぶ。</li> <li>血液-空気関門としての肺胞壁の構造を学び、肺胞上皮の種類、形態学的特徴、機能的役割を理解する。</li> </ul>
第25回7月5日 11:00~11:50 山崎洋介	15. リンパ性器官 3) 脾臓 (教) pp. 146-148	<ul style="list-style-type: none"> <li>脾臓の組織構造を血流に沿って整理し、また、脾洞は特殊な毛細血管であることを学ぶ。</li> <li>脾臓に見られる細胞、その形態的特徴や機能的役割を理解する。</li> </ul>
第26回7月5日 13:00~13:50 白土 昌之	16. 泌尿器系 (教) pp. 189-195	<ul style="list-style-type: none"> <li>腎臓の構造的・機能的単位であるネフロン構成を学び、腎小体の構造をその発生過程から理解する。</li> </ul>

授業日・担当者	講義項目	学修到達目標
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 尿細管・集合管系各部の組織像を尿生成のプロセスと関連づけて理解する。</li> <li>・ 傍糸球体装置の細胞構成や血圧の恒常性維持に果たす役割を理解する。</li> <li>・ 泌尿器系臓器の概要を把握する。特に膀胱上皮の組織学的な特徴を理解する。</li> </ul>
第27回7月12日 11:00～11:50 山崎 洋介	17. 感覚器 (教) pp. 135-138, 178-180, 347-349	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 感覚器系に属する生体内の組織・構造を分類・整理する。</li> <li>・ 触圧覚や深部知覚等に関わる受容器の構造の概要を学び、また、微絨毛が感覚受容性細胞で果たす役割を理解する。</li> </ul>
第28回7月12日 13:00～13:50 白土 昌之	18. 内分泌器 (教) pp. 172-175, 199-210	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 生体内での内分泌器官の分布と産生ホルモンについてまとめ、これらが階層的に調節されていることを学ぶ。</li> <li>・ ホルモン等の生理活性物質について、その分泌や作用様式を整理・理解する。</li> <li>・ 甲状腺と膵臓内分泌部の組織像を学ぶ。</li> <li>・ 腸管の内分泌細胞の特徴を学び、それらが産生するホルモンの役割を理解する。</li> </ul>

なお、前期試験(筆答)の出題範囲は、別途通知のない限り、第20～28回の講義とする。